



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
(0577) 32-0776
\*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

なんまんだぶつの子守歌

—過去・現在そして未来へ—

千田 みのり



〔略歴〕
一九四八年滋賀県米原市生まれ。長浜教区第16組願隨寺坊守。宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌ソング「なんまんだぶつの子守歌」を作詞。

なんまんだぶつ
なんまんだぶつ
おまえはひとりじゃないんだよ
しんらんさまも いなさるよ
いまもしみじみ思い出す
おじいちゃんの子守歌

なんまんだぶつ
なんまんだぶつ
おばあちゃんのお念仏
いただきますありがとうございます
忘れず大きくなつてくれ
いまも心に浮かびくる
おばあちゃんの子守歌

なんまんだぶつ
なんまんだぶつ
小さな子供と手をあわす
数えきれない人たちに
願われ生まれたお前だよ
いまもたしかに聴こえる
しんらんさまの子守歌

二〇一一年の宗祖親鸞
聖人七五〇回御遠忌ソングの一曲として、私の作詞が採用されるといふ有り難きご縁にあわせていただいたこと、唯々感謝と驚きでした。

さて、私の記憶は今から60年程前の七百回御遠忌の時に遡ります。小学生だった私は、御遠忌お待ち受け機運の高まる中、自坊の本堂で家族やご門徒に混じって御遠忌の歌、踊りの練習に参加し、難しい歌詞を丸覚えしてました。幼い頃、祖母の与えてくれた東本願寺出版の絵本の中の親鸞さまは「偉いお坊さんの一人」でした。しかし、歌詞に出会い、親鸞さまの徳を讃える歌を口ずさむうちにその印象が変わってきたのです。

本堂には一枚の御遠忌ポスターが貼ってありました。合掌する大勢の人の最前列に、おばあちゃんとお父さんが並んで拝んでいる絵でした。それは私の脳裏に強く焼き付けられました。祖母に連れられよそのお寺参りをした事が思い出されたのです。このポスターの前で、みんなで正信偈を唱和し歌を練習する。私にとつてこれが御遠忌の風景となりました。昭和36年、御遠忌の後にはこのポスターもはずされ目にした。ところが、大人になって本願寺に参り加し同朋会館で再びこの絵に出会った時の私の感動。声にならない声で「また会えた！」とつぶやいていました。長年探して

いた人に再会したような喜びでした。これは石川県専修寺前住職、高光一也画伯の描かれた絵で、男の子にはモデルがおられたと知ったこともまた感動でした。子供の時の体験は心身のどこかでずっと温められているのだと実感し、それがとても大切な事なのだと思います。私の育った琵琶湖北部の山村は信仰心の篤い所で、教如上人ゆかりの長浜・五村両別院を中心にお念仏の広まった所です。子供の頃「なんまんだぶつなんんだ」という声が、あちこちで聞きました。お年寄りは何かにつけてお念仏を称えておられたからです。孫を乗せて乳母車を押しながら。畑仕事の合間に腰を伸ばしながら。子供たちは日々の暮らしの中でお念仏に出会っていたのです。私が幼い頃、祖父は度々「わしは一人でも寂しくないや。親鸞さんと一緒やさかい」と私に話しました。それが親鸞聖人御臨末の御書に由来している事を知り、祖父は、知らず知らずのうちに私を仏様の教えに導いてくれたのだと感謝しています。祖父は8歳の時、10日違いで両親に死別するといふ悲しい生い立ちの人でした。医療がまだ進歩していなかった明治20年代、祖父の父親は葬儀に

出向いた先で伝染病に罹患し、看病していた母親も相次いで亡くなったという事です。「親鸞さんと一緒やで...」。この言葉の底に祖父の深い思いをいただいている私です。

私は現在、真宗大谷派長浜教区合唱団「花あかり」の団員として仏教讃歌にご縁をいただいています。



宗祖親鸞聖人700回御遠忌ポスター『合掌の図』高光一也 画

ます。今、子供の時に意味も解らず覚えた「讃仏の歌」を歌いながら、時空を超え、数え切れない人達に願われ支えられ生かされている私なのだとしみじみ思うのです。そして、「なんまんだぶつの子守歌」を通してお念仏の心が遠い未来の子供たちにまで伝わっていくことを心から願っています。

阿弥陀さんのはたらき

～お寺の子ども会を立ち上げて～

西蓮寺門徒 信男
上清水

昨年4月、金沢別院において「ひとりからはじめる子ども会」講習会に参加しました。「お寺の子ども会」開設の願いや進め方、また絵本の読み聞かせなどを学び、また、参加者やスタッフから熱意や苦悩を聞いて子ども会の意義を強く感じました。高山に戻り、早速住職と相談して「西蓮寺子ども会」を開くことになりました。

子どもにとってお寺とはどんな「場」になっていくことが大切なのでしょうか。私たちはいつも競争を強いられ、取り残された者、弱き者、小さき者が片隅に追いやられるような時代社会を生きています。子どもたちを含め、私たちは「業」を背負いながら他者との関係を生きる身です。だからこそ、「お念仏を申すこと(阿弥陀さんのはたらきを信ずる心)」を通して、全ての関係性に意味を見出し受け止めていきたい。一人ひとりの出遇いが「尊い」こととして確かめられ、阿弥陀さんに生きる力を与えられる場が必要だと思ふのです。

子ども会の立ち上げは阿弥陀さんの促しがあればこそです。手探りですが、西蓮寺子ども会はまもなく一年を迎えようとしています。



「ひとりからはじめる子ども会」講習会参加者募集!

日時 6月10日(土) 10時～16時まで
会場 高山別院会館2階(研修室)
対象 大谷派寺院に所属し、お寺の子ども会活動に関心のある門徒・寺族
申込締切 2017年5月19日(金)まで
※申込書・要項はお手次のお寺にあります。お問い合わせは高山教務所まで。



真宗教学学会高山大会

テーマ 報恩講 — 伝承から新たな伝統へ —
期日 2017年5月18日(木)
日程 午前10時30分～午後4時
午前 研究発表(高山教区教化研究所研究員3名)
午後 記念講演
会場 高山別院(本堂・御坊会館)

講演① 草野 顕之 氏(真宗大谷派副講・大谷大学教授)
講演② 鶴見 晃 氏(真宗大谷派教学研究所員)

※当初、記念講演を安富信哉氏(真宗大谷派教学研究所長)にお願いしておりましたが、3月31日にご逝去されたため、変更となりました。
※昼食は、各自でご用意ください。
※申し込みは不要です。詳細については高山教務所までお問い合わせください。

☎テレホン法話(0577)34(23)13 ☎4月21日～30日:山本憲人氏「寶藏寺」 ☎5月1日～10日:村上真生「高山教務所書記補」 ☎5月11日～20日:窪田純氏「圓徳寺」 宗教トラブルFAX相談窓口(0577)3210763

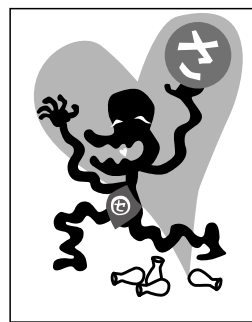


家庭で読む

女と男

ナムアマミダブツ⑬

藤場 芳子



セクハラおやじに

変身す

面接試験でのこと

れば、「20年前に私も同じ質問をされた。正解が求められたわけではなくて、入社後に起きるだろう様々な場面に対応できるかどうかを試されたと思った。つまりハタタリでもいいのよ」というしたたかな意見もありました。またある人は「忖度させることが問題。つまり面接試験を受ける人は面接官の気持ちを推し測ってそれに沿うようにプレッシャーがかかる。男性だったらどこの土地にでも転職できますかと質問されると思う」と。なるほど最近よく耳にする「忖度」ということか。忖度してもらう側には圧倒的な力があるから、暗黙のうちに自分の意に沿うように相手を動かすことができるわけです。

言葉の力

さて、今回の句は「酒の席 セクハラおやじに 変身す」です。セクハラ(正式にはセクシュアルハラスメント)は1970年代にアメリカで作られた言葉で、女性に対する暴力の一つです。日本では「性的いやがらせ」と翻訳されて、80年代後半から広く知られるようになりました。最近では男性に対しても使われます。では、それ以前にセクハラはなかったかというところではありません。職場で軽んぜられることがあっても、何が問題なのかからというちは黙って耐えるしかありませんでした。けれど、言葉化されたおかげでその言動が性差別だと認識できるところになったのです。言葉の力です。でも、同時に「何がセクハラなのかわからない」という声も聞くようになりました。

この春、友人の娘さんが就職の面接を受けた時のことです。「彼はいますか。結婚しても仕事を続けますか」という質問を受けたそうです。帰宅してからその話を聞いた両親は「それってセクハラじゃないのか」と言って話し合ったとか。「ところで、娘さんは何て答えたの」と私が尋ねたところ、「彼はいます。結婚しても仕事は続けます」と正直に答えたらしい。面接官の質問の意図は何だったのだろう。好意的に解釈すれば、社会人としてしっかり働く覚悟があるかどうか知れたかたのたのたの。それなら男性にも「彼女はいますか。結婚しても仕事を続けますか」と尋ねたのだろうか。

います。上下関係を利用してクビにしたり減給や降格する「対価型」と体を触ったり職場に水着のポスターを貼ったりする「環境型」です。今回の絵では男性が宴会で裸踊りをしています。そこまですりかかなくても隣に座ることやお酌、デュエットなどが求められた時、イヤだなと思ってもその場の雰囲気や壊したくないので、ニコニコと応じてしまう人が多いのではないのでしょうか。男性に対して「ナヨナヨしていたらお嫁さんがこないぞ」と言うのもセクハラです。発言する人には親しみを込めた素朴な質問だとしても、男女ともに「なぜ結婚しないのか」「なぜ子どもをつくらぬのか」や異性関係を詮索したりするのも、される側にとっては不快だったり傷つく場合があります。」「どこまでがセクハラか」と答えを求めるより「相手の立場だったらどうか」という想像力が必要だと思います。

無明の酒に酔う 自分で自分の相が見えないことを仏教では「無明」と言います。貪欲(むさぼり)・瞋恚(いかり)・愚痴(仏教の道理を知らない)の三毒の煩惱でいっぱいだと気づかない私たち。そのことを親鸞聖人は「無明の酒に酔う」とお手紙に書いています。仏さまの教えを聞き始めて少しずつ無明の酔いから醒めてきたのに、薬(教え)があるからといって三毒の煩惱を好んでしまう私たち。そんなくり返しをするアホな私たちに「ナムアマミダブツと念仏せよ」の声が聞こえてきます。

相手の立場を想像する

セクハラには二種類あると言われて

次回は酒井義一さんの「私を照らすひかりの言葉⑬」です。

定例法座・法話(午後1時から) ○4月21日(金)：鈴木高彰氏「西方寺」 ○4月27日(木)：出雲路善公輪番 ○4月28日(金)：前田佳代子氏「長林寺」 ○5月1日(月)：日野益良氏「桂林教会」 ○5月11日(木)：出雲路善公輪番 ○5月13日(土)：江馬雅人氏「賢誓寺」

飛騨御坊ボランティア委員会報告 (石浦町 八反 彰さん)

4月8日から10日の2泊3日で女川ボランティアに行ってきました。今回は、東日本震災七回忌追弔法要を復興住宅の中庭で勤めました。あいにくの雨模様でしたが、100人以上の参加者があり、日野ボランティア委員長をはじめ4名の僧侶の方々による読経の中、女川の人たちが亡き人を偲んで焼香されました。そして、高山の國島市長さんからの心のこもったメッセージを代読させていただきました。女川町を代表して参拝された村上教育長さんも大変感激されていました。

その後、味ご飯のお齋と、みだらし団子・鉢花・お抹茶や、家庭用品などのプレゼント・マッサージコーナーなどなごやかな交流会となりました。先方の自治会の方には、サンマのつみれ汁や焼きそばを準備していただきました。法要を勤めた大原北区の鈴木区長さんは、「最近ボランティアも少なくなり、住民交流が進まない中で、盛大な行事になった」と喜んでおられました。

女川町は、津波の被災地域をかさ上げし、商業、交流等の土地利用を計画しており、現在はその工事中です。また、住宅はすべて高台移転となるため、復興住宅の建設もまだ3割位の進捗だと聞きました。その復興住宅は大変きれいなところですが、入居者の高齢化が進み、静かな鉄筋コンクリートアパートという印象でした。仮設住宅から復興住宅への目まぐるしく変わらざるを得ない環境に住民の心がついていけないようで、少し寂しく感じました。今後もそんな女川の町にできるだけ寄り添っていきたいと思いました。

また、帰路の途中で昨年12月22日に

大火災のあった、新潟県糸魚川市の社会福祉協議会を訪れ、中村事務局長さんに義援金を手渡して来ました。こちらは、現在瓦礫の撤去が終わり、住宅の基礎だけが残っていました。大火災の恐ろしさ想像しました。

最後に、今回のボランティアにもご支援、ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。



高山2組若声会 連続公開学習会 (第二回)

日時 5月23日(火) 午後7時半から  
会場 高山別院御坊会館  
講師 海法龍氏 (東京教区長願寺)  
内容 歎異抄第十一章  
テーマ 本願の名号  
聴講料 500円

今月の一冊

ワンコインブック 「凡夫」「報恩」「同朋」 (東本願寺出版部)



各冊100円

正宗の「かなめ」となる教えの言葉を題材としたひとくち法話の新シリーズ。「凡夫」「報恩」「同朋」。一気に読みきれぬ短い分量でやさしく教えにふれていただけます。また、シリーズ名の通りワンコインというお求めやすい価格で記念品や施本に最適です。不遠寺(総和町)住職四衛亮氏の書き下ろし。お求めは高山教務所まで。